



(件名) ロシアにおけるキャッシュレス決済事情

意外に思われるかもしれませんが、ロシアでは日常生活で現金を持たなくてもほぼ困らないほどキャッシュレス決済が普及しています。ロシアの銀行最大手ズベルバンクのグループ会社「ズベルインデックス」の調査レポート「2021 年第一四半期キャッシュレスに関するロシアの市と地域ランキング」(注1) のデータを紐解きながら、当地における決済事情をお伝えします(以下、注のない出典は同資料による)。

1 ロシアにおけるキャッシュレス決済比率

2021 年第一四半期におけるロシア国内のキャッシュレス決済比率は 59.4%と、日本の 29.7% (注2) と比較しても大変浸透していることがわかります。日本でのキャッシュレス決済は大都市圏が圧倒的に便利ですが、ロシアでは大都市圏も地方もほぼ変わらないほど普及しているのが特徴です。キャッシュレス決済比率を地域別にみると、1 位は北極圏にあるネネツ自治管区 (72.8%)、2 位はカレリア共和国 (67.7%) となっており、一方、モスクワ市及びモスクワ州は 61.9%。都会ほどキャッシュレスが進んでいるというわけではありません。

極東連邦管区に主な連邦構成主体では、ウラジオストクを含む沿海地方は 55.5%、サハリン州は 64.2%、ハバロフスク地方は 63.7%となっています。

実際にウラジオストクで生活していると、乗合バスや小規模な飲食店もキャッシュレスに対応しているため、日常の決済はほぼ Apple Pay で済んでしまいます。

主な地域のキャッシュレス決済比率
(注1 の資料より筆者作成)

地域	キャッシュレス比率
ネネツ自治管区	72.8%
カレリア共和国	67.7%
ムルマンスク州	67.3%
サハ共和国	66.8%
カムチャツカ地方	66.3%
...	
サハリン州	64.2%
ハバロフスク地方	63.7%
沿海地方	55.5%
ロシア全体	59.4%

2 ロシアにおけるキャッシュレス決済の内訳

キャッシュレス決済の内訳をみると、ロシアでは圧倒的にデビットカードの比率が高く、2020 年にはキャッシュレス取引のうち 73.9%がデビットカード決済でした。特に非接触式(タッチ決済)がほとんどで、スーパーやレストランで老若男女問わずカードやスマートフォンを決済端末にかざす姿が日常的に見受けられます。

さらに、QR コード決済も徐々に普及しつつあり、ロシアでのキャッシュレス決済手段はさらに多様化していくものとみられます。

コロナ禍による生活習慣の変化に伴ってキャッシュレスの需要がますます高まっており、道内においても一層普及が進むことと思われます。店舗の利益と消費者の利便性を両立させながら、キャッシュレスの普及が進み、経済の活性化につながることを期待します。

注1 : https://www.sberbank.ru/common/img/uploaded/files/pdf/analytics/bezna_1q2021.pdf

注2 : 出典 経済産業省『2021 年度第 1 回 キャッシュレス決済の中小店舗への更なる普及促進に向けた環境整備検討会』説明資料